

(11)九州



九州地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産はこのところ緩やかに増加している。
- ・ 個人消費は緩やかに持ち直している。
- ・ 雇用情勢は改善している。

(注)下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(↑は上方に変更、↓は下方に変更)。

前回からの主要変更点

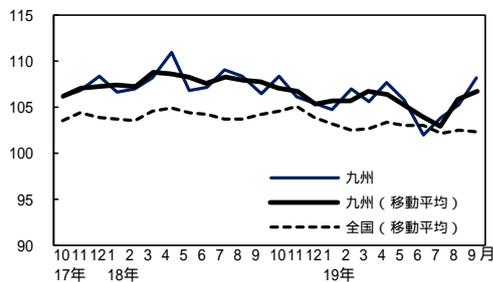
	前回(令和元年8月)	今回(令和元年11月)	
景況判断	緩やかな回復基調	緩やかに回復	
鉱工業生産	高水準で推移しているものの、弱さ	このところ緩やかに増加	
雇用情勢	着実に改善	改善	

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産はこのところ緩やかに増加している。

7-9月期には、電子部品・デバイスは、半導体集積回路(CCD・その他)等が増加した。輸送機械は、減少した。食料品は、減少した。汎用・生産用・業務用機械は、半導体製造装置、ボイラ・原動機等が増加した。化学・石油石炭製品は、プラスチック、有機化学製品(芳香族)等が減少した。

鉱工業生産指数



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		4-6 月期	7-9 月期	7月	8月	9月
電子部品・デバイス	13.6	3.0	12.2	3.7	11.7	0.9
輸送機械	13.5	2.2	4.3	4.2	1.3	2.7
食料品	12.2	0.5	0.7	0.5	0.1	1.3
汎用・生産用・業務用機械	12.2	9.9	12.8	6.6	14.5	13.2
化学・石油石炭製品	10.0	11.1	8.3	6.2	0.7	4.4
鉱工業	100.0	0.6	0.7	2.0	1.3	2.9

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 7-9月期、9月は速報値。

(備考) 1. 2015年=100、季節調整値。九州の最新月は速報値。

2. 全国及び九州の大線は中心3か月移動平均。

直近月は2か月平均。

2. 個人消費の動向

個人消費は緩やかに持ち直している。

(1) 地域別消費総合指数(RDEI(消費))

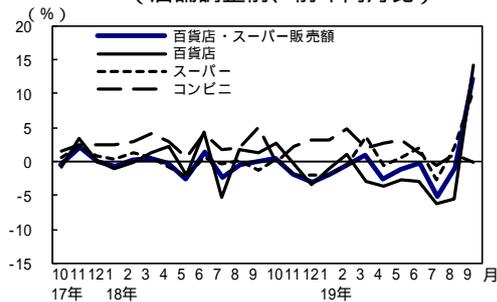
7月は前月比2.1%減、8月は同0.6%増、9月は同2.6%増となった。

(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店は、7月は、天候要因に加え、クリアランスセールを6月に前倒しして実施したことなどから、衣料品や飲食料品を中心に全体の動きが鈍く、前年を下回った。8月は、天候要因に加え、お中元の動きも鈍かったことなどから、全体的に動きが鈍く、前年を下回った。9月は、高めの商品の動きなどがよく、前年を上回った。

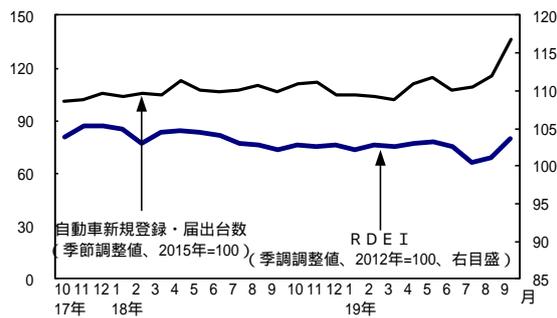
スーパーは、7 - 9月期は全体的に動きがよく、前年を上回った。

百貨店・スーパー販売額等
(店舗調整前、前年同月比)



	2019年7-9月	2019年7月	8月	9月
RDEI(消費*1)	1.2	2.1	0.6	2.6
百貨店・スーパー(*2)	1.5	5.1	0.8	12.1
百貨店(*3)	0.1	6.3	5.6	14.2
スーパー(*3)	2.9	2.7	2.0	10.4
コンビニ(*3)	0.1	0.6	1.0	0.2
乗用車(*4)	12.7	2.4	3.9	29.1
(季節調整値)(*4)	8.4	1.6	6.0	18.2

RDEI(消費)と自動車新規登録・届出台数の推移



(備考) 1. 季節調整済前期(月)比(%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

3. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

百貨店、スーパーは沖縄を含む経済産業省の九州の値。

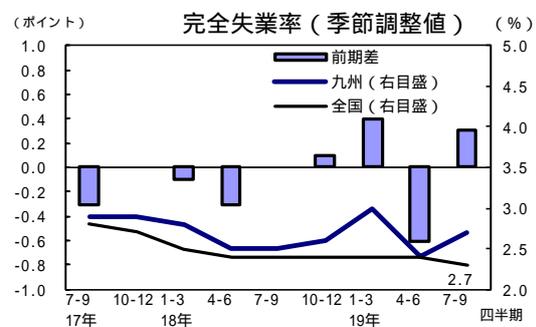
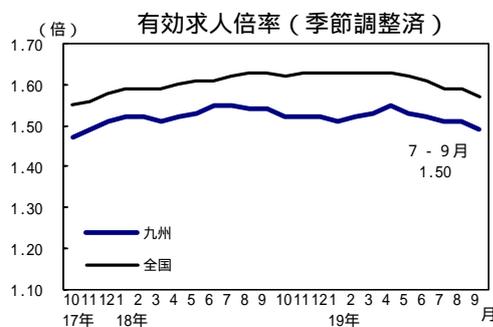
コンビニは、経済産業省の九州・沖縄の値。

4. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))

3. 雇用情勢

雇用情勢は改善している。

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前期を上回っている。



(備考) 内閣府にて季節調整。